

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	物理学概論				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.8	4.9	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
本授業の目的は、中学校理科物理領域における基本的な法則や概念を学ぶことを通して、自然現象を理解するための考え方を習得することでありました。また、それぞれの法則の全体系の中での位置づけや相互関係を把握することによって、物理をより深く理解することを目指すことでありました。 授業におきましては、物理学の基礎的な事項について、事前・事後学修に丁寧に取り組まれ、理解されようと努力される姿が印象的でした。自由記述では、皆様が、物理学だけでなく、教師として必要なスキルや知識も身につけることができたという感想もいただきました。私も、皆様と物理学に関連する最新の話題や教育の問題について議論することで、新たな気づきや学びがありました。 また、レポートについても、毎週丁寧に取り組まれたこと、素晴らしいと思います。レポートを読むことで、皆様の物理学への理解度や興味を感じることができました。しかし、「提出までの期日が短い」「学んだことを記述する意味はあるのか」というご意見もありました。このどちらも、皆様自身の学びの質の向上にはとても有効であることをお伝えします。まず、学びを振り返ることで自身の認知がどのレベルにあるのかを意識することができるという研究があります。つまり、学びを自覚化し、メタ的に省察を行うことで、次回の学修に向けた自身の学び方を構築することができます。そして、この振り返りのタイミングは、授業終了後から期間を開けないことが重要です(エビングハウスの忘却曲線です)。また、このタイミングでなければ、次回の授業に皆様からのフィードバックを生かすことができません。以上のことからレポートを課し、期日を設定していますので、ご理解ください。 この授業を通して、皆様が物理学に対する関心や知識を深めることができたとしたら、とても嬉しいです。物理学は、自然界の法則や現象を理解するための素晴らしい学問です。物理学を通して、世界をより豊かに感じることができると信じています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育原理				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.6	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
教員採用試験や公立試験を意識して、知識教授型の授業になりやすいこの科目の評価としては良い評価をいただいております。授業の進行速度が速いこと、資料に文言を記述する際に早く次の説明に入り、理解が追い付かないことがあったと記述されていました。来年度はゆっくり話、記述スピードに配慮することを今年以上に気を付けます。今年は例年に比べて単位取得できた学生が多かったです。皆のやる気がテストを通じて、伝わってきました。3 年次にまた私の科目があるので、要領忘れないようにしてくださいね！					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育方法・技術論				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
「小テストの解答を口頭でいうだけではなく、パワーポイント等で目に見える形で解答してほしい」、「レジメを見れば、小テストが解答できると言っていたが、レジメだけでは解答できない、ゆえにレジメと小テストをもっと関連させてほしい」との要望がありました。 小テストの解答で分かりにくいと思うところは板書したつもりでしたが、来年度はもっと学生にわかりやす形で表記するようにします。ほとんどの授業で学生の学習時間を問う質問で、学生の学習時間が少ないことがわかっています。よって授業内だけですべての回答ができないように自分で調べないと解答できない質問も設けています。そうしないと授業外学修時間が確保されません。 今年は例年に比べて単位取得できた学生が増えました。よかったです。残りの1年頑張りましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	国語				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.9	4.9	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
国語の指導の基礎について15回講義しました。「他の教科にも共通する指導技術のことを知ることができた」「苦手な国語だったけれども、楽しく取り組むことができた」という感想がいくつかありました。この授業で身につけたことを他の教科や教育現場に繋げようと考えていることは、大変頼もしくおもいました。国語がが苦手な人は多いと思います。教師が楽しむことで子どもも楽しく取り組むことができます。この授業では、実際に言語活動に取り組みました。子どもの目線になって取り組むと、楽しいこと、難しいことなどが見えてきます。そうした感性、感覚も指導には大事な要素です。3年生では、いよいよ教育実習がまっています。「たのしい」「わかる」授業をめざしてこれからも頑張ってください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育・教育実践演習Ⅰ				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
この授業では、大学における授業や研究への取り組み方、将来の進路について考える、見学実習を通して自己の適性について考える、この3本を大きな柱としてきました。感想を読むと、「実習で自分の進路を考える良い機会になった」「子どもと実際に触れ合うことができて力になった」という意見がありました。また、一人一人相談しやすい雰囲気だったという感想もありました。ゼミという少人数の授業ですので、みなさんに寄り添った取り組みを今後もしていきたいと考えています。 2年生からは、保育幼児コースと義務教育コースに分かれ、一層、専門的な学びに入っていきます。将来の進路を見据えて、様々なことにチャレンジしていきましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	子ども家庭福祉				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.4	4.4	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
暖かい評価をいただきありがとうございます。今後も、学生のニーズと必要な知識を厳選した講義を展開できるよう努めてまいります。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	障害者福祉特論				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.1	4	4	4	
学生へのメッセージ					
今年度も厳しい評価をいただきました。当該科目が学生のニーズに合っていないのかもしれませんがね。でも安心してください。当該科目は今年度をもって終了いたしますよ。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育者論				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.2	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
本授業は「保育者」という仕事の本質や特質を捉えるとともに、法的な位置づけなども理解できるよう授業を行いました。また、幼稚園の実践動画の視聴や保育所の一日の流れを示した事例などを用いて、できるだけ具体的に保育者の仕事内容や役割が理解できるように努めました。さらに、可能な限りグループワークを取り入れ、対話を通して質の高い保育が実践できる保育者について考察を深められるようにも努めました。しかし、本来講義科目であり、教授内容が多く、グループワークにじっくり時間を使えなかったところが反省点です。 よりよい保育者とはどのような保育者なのか、どんな保育者になりたいのか、皆さん自身がこれからの学びの中で探求していけるきっかけになる授業にしたいと考えています。今後は様々な役割を求められている「保育者」について理解が深まるよう、講義とグループワークをバランスよく取り入れながら授業を工夫していきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育の計画と評価				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.1	4.1	4.1	4.1	
学生へのメッセージ					
本授業では幼稚園の教育課程や保育所等の全体の計画と様々な指導計画について説明をしました。保育は入園から修了までの長い見通しと日々の子どもの姿の両方を捉えて計画を立てる必要があり、その考え方や計画立案について講義を行いました。さらに、設定保育の指導案を個々に考えたり、年間の指導計画に基づいた月々の計画立案をグループで行い、ポスター発表をしたりするなど、できるだけ実践的な内容が理解できるよう努めました。 指導計画立案は子どもの発達理解と保育のねらいと内容の理解を踏まえて適切に環境構成や活動内容、援助方法などを検討しなければなりません。そのため難しさを感じる学生さんも多くいます。本授業でも授業内容があまり理解できなかったという方が少数ですがおられたので、個々の理解に応じた指導を工夫し、授業方法を改善していきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	介護等体験				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.7	4.5	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
本来なら、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の実習になるはずでしたが、感染症予防のために遠隔での座学となりました。しかなしながら、みなさんの毎回のレポートを読んでいると、聴覚障害児の教育に必要な合理的な配慮、組織づくり、教材研究、ICTの活用等についてきちんと理解していることがわかりました。 4月から、教職に就く人は、子どもの「困り感」にしっかりと目を向けてください。授業中に騒ぐ、指示を聞かない、忘れ物が多い、友達とトラブルになる、などの「困った状態」は、先生を困らせるものではなく、その子本人が何かに「困っている」からです。頭ごなしに注意、指導するのではなく、その子が何に困っているのかを把握することに努めてみましょう。初めは、手強いかもしれません。しかし、だんだんとコミュニケーションが取れてきます。困り感が把握できれば、適切な支援が見えてきます。 4月から教職以外につく人も、合理的配慮は必須の事項です。会社の同僚、顧客、利用者さんたちが「困り感」を把握して、適切な支援を講じるようにしましょう。このセンスは教育学部でしっかりと身につけているとおもいます。 最後に、自分自身の「困り感」も見過ごさないで。友人、知人に相談して適切な支援を受けましょう。支援はお互い様です。社会人、良いスタートをきってください。期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育・教育課題研究Ⅲ				
担 当 者	山下敦子 ほか				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.6	4.5	4.4	4.2	
学生へのメッセージ					
この授業は、主に公立幼保対策、教員採用試験対策を行いました。保育、教育に必要な基礎的な知識の定着と必要な技能について実践を行いました。授業内容については、良い評価をしていただきました。教員養成コースでは、４年生と３年生が合同で学び合う形式を取ることもありました。その授業形式について、先輩の経験談がためになった、合同で学ぶことで質問がしやすくなった等の感想がありました。反面、合同形式では緊張してしまうという声もありました。今後、合同の形式については、回数や内容についてさらに改善を図っていきます。 ４月になると出願が始まります。採用試験、公務員試験も来年度は前倒しになります。早めの準備を心がけて、合格を勝ち取ってください。がんばりましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	小学校体育				
担 当 者	近藤みづき・三木伸吾				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.6	4.4	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
授業評価結果を見ると、学科平均と同等かやや上回る評価でした。皆さんがある程度満足する授業が展開できたと感じています。皆さんは、技の理想像を高くもっていたため、なんとなく技ができただけでは満足せず、完璧にできるようになるために真摯に取り組んでいたと感心しています。自由記述では、授業終了時間のこと、講義を3回に分けてすることについて言及されていました。次年度の改善点にしたいと思います。 最後に、授業で扱った「動感」という概念は、動きを覚える・覚えさせる活動時に必ず現れます。この授業で学んだことを忘れず、現場で活用されることを願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと身体表現				
担 当 者	近藤みづき				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.5	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
授業評価結果を見ると、学科平均とほぼ同等の評価でした。皆さんがある程度満足する授業が展開できたと感じています。これも皆さんが積極的に授業に取り組んでくれたからだ感謝しています。 自由記述欄をみると「ダンスとかで動けるのが楽しかった」「最後に取り組んだグループで作る表現がおもしろかった」「身体表現をグループでする時（中略）、自分達のクラス以外の発表が見られたのがとても良かった。新聞紙を使ってグループ分けをするのがとても良かった」というコメントがありました。 一方で「グループ決めの仕方が良くなかった」「もう少し身体表現の時間が欲しかった」「座学の内容が分かりにくかった」という意見がありました。グループ決めについては、同じ決め方でも正反対の意見があるので引き続き検討します。作品創りの時間については、昨年度よりも増やしました。皆さんに表現をインプットしてもらう時間や発表の予備の時間を考えると、これ以上増やすのはなかなか難しいというのが現状です。座学の内容については、分かりやすくなるよう改善を試みます。 「子どもと身体表現」の授業で皆さんが創った身体表現作品は、どれも趣向を凝らした本当に素敵な作品ばかりでした。小道具を極力少なくし、身体だけで表現させた作品や、音楽や衣装を工夫した作品がありました。今後、この経験を子ども達の表現活動につなげられることを期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの理解と援助				
担 当 者	柳原 利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	3.8	3.8	3.8	3.8	
学生へのメッセージ					
クラス別のカテゴリー別平均値は、 A クラス：3.2 ,3.8 ,3.9 ,3.9 ,3.9 / B クラス：3.4 ,3.8 ,3.8 ,3.8 ,3.8 であり、 クラスによる回答の傾向に大きな違いはありませんでした。 毎回の授業では manaba アンケートを実施していましたが、 特に授業終わりの実施が多かったために、 4 限に次の授業を控えていた A クラスの方の中には回答時間が十分ではなかったという意見がありました。この点に関しては、何回かは授業途中の時間帯に実施していたのですが、次年度よりもっと途中の時間帯に実施できるように授業内容を変更するようにしたいと思います。 この科目では毎回の授業の中で、 事例を出しながら保育者となるために、誰のどのような気持ちにアンテナを張る必要があるのか、ということを考えてもらえるように進めていったつもりです。来年からは本格的な実習が始まります。是非いろんな人の視点に立って観察し、保育に活かせるようになってほしいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原 利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.1	4.2	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
この科目は心理学の専門用語や研究者名などたくさん出てくるので、各回の復習が重要です。特に教員採用試験を受験する予定の方に対しては、かなり暗記しておく必要があるので、小テストや定期試験でも知識を問う問題を多く出題しました。教育心理学の内容は、主に発達、学習、人格・適応、教育評価の4領域から構成されています。保育・幼児教育コースの方には3年生で発達の領域については、保育の心理学でさらに詳しく学ぶ機会がありますので、楽しみにしてください。義務教育コースの方には、今後同じような内容で、私が担当する授業はありませんので、教員採用試験に向けて、過去問を解くなど定期的に教育心理学で学んだことを忘れないようにしてくださいね。 自由記述の意見では配布資料や小テストについて肯定的な意見をいただきました。また、マイクの音が大きすぎたという意見もありましたので、すぐに改善できる点として今後注意していきたいと思います。そして、授業態度についての評価もしっかりとしてほしいという意見がありましたので、受講しているみなさんに嫌な思いをすることのないように気をつけたいと思います。 ご意見ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	基礎研究演習Ⅱ				
担 当 者	中西 利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4.3	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
担当者3名（近藤・山田・中西）で3グループに分けての授業や、8・9月期の保・幼・施に分かれての学外実習、4年生から実習について具体的に情報収集するジョイント授業、K I Tでの実習と、さまざまな形態で授業が実施されましたが、すべてにおいて、ほとんどの学生が熱心に取り組んでおられたと思います。出席状況も特定の学生以外は良かったです。 後期のK I T実習では、事前事後指導においてグループで準備・計画、そしてふり返りを行い、一連の学びのプロセスにより、保護者と一緒の状況での援助方法や、0～2歳児の低年齢児を対象とした実践・援助方法について体験を通して理解を深められたと思います。3カ所のあそびのひろば共に、スタッフの先生方が丁寧に指導してくださいました。具体的なご指導をいただきましたので、是非3年次からの実習で行かしてください。K I T実習だけでなくどの実習についても同様ですが、やはり準備に手間をかけた実践は、子どもにも保護者にも感動を届けますね。 新聞の切り抜きも多くの方ががんばって取り組んでおり、まとめ方も工夫し、調べ学習等、学びをひろげている様子がうかがえました。来年度の受講生の見本になるような内容がいくつもありました。 4年生とのジョイント授業においては、2年生による評価用紙の自由記述には、総じて「3年次の実習に向けて準備ができてよかった」と感想が述べられており、特に、第2部の分科会では、時間いっぱいまで熱心に4年生から情報収集する姿がみられました。 前期・後期を通して実施した各種グループワーク、そして最終段階で実施する学びの成果としてのポートフォリオを通したグループワークとそのまとめ報告から、多くの学生が自己と他者の思いや考え、表現の違いに気づき、自己をふり返り課題について抽出し、次への学びへ向かおうとする姿勢がみられました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	教職実践演習				
担 当 者	中西 利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.7	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
4年生による「実習を伝える」発表とその後の分科会に対する2年生の評価はとても高かったです。4年生は発表ですが、分科会については各グループがいろいろ工夫し準備していました。授業教材や実習記録等、実物を用意し、板書や壁面も活用し、2年生がイメージしやすいよう環境を準備していた点は良かったです。そのため、2年生からは各グループの提供内容や提供方法に対し、具体的でわかりやすかった、知りたいことを知ることができた、役に立ったと、総じて4年生への感謝や尊敬がうかがえました。皆さんの「実習を伝える」の振り返りシートにも、2年生へ伝えることの意味や、学年を超えた交流の意義が記述されていました。授業評価の「この授業で良かったと思った点」に関する自由記述にも「神戸常盤大学で学んだことの集大成である教育実習とその先について、後輩へのアドバイスとして伝えることができた点」とあり、この取り組みの目的達成度の高さがうかがわれます。 また、昨年度の振り返りで提案があった「実習を伝える」の2年生評価方法の変更については、4年生の教員養成コースの学生が作成してくれた Google フォームでのアンケートを実施しました。集計結果を全学生が共有でき、集計もしやすくなりました。 さらに、本年度からグループ活動の際の授業方法も変更し、教員養成コースと保育者養成コースに分けて実施しました。それについては特に否定的な意見はありませんでしたし、授業評価もいずれの分野ともに高評価で総合評価は4.8だったため、今後も継続していきます。 ただ、授業評価の回答率が30%だったのが残念です。manabaからの依頼でしたので、周知しにくかったためと思われます。 13・14回目のみつん先生による「カラフルな姓の世界～みんな違って当たり前～」の講義については、みなさんのコメントから多くの気づきや学びがあったことがわかりました。みつん先生もとても手応えを感じておられました。みつん先生の授業で感じたことを社会に出ても時々思い出してください。 最終回のレポートはみなさん丁寧に4年間を振り返り、自己分析、自己評価を展開されている様子に感心しました。4月から社会人ですが、どうぞここでの振り返りを忘れないで、進んでいってほしいと思います。					



学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育内容候				
担 当 者	中西 利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
急な担当者の交代により、シラバス（授業計画や成績評価方法）の変更については初回授業で連絡することとなりました。 この授業では、まず「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」での保育内容に関する共通する重要事項について理解を図りました。3種類の解説書を比較して読み込みながら、内容の理解を深めました。皆さん、マーカーで印を付けたり、付箋の付けたりと工夫して確認作業をしていましたね。そして、指針や要領の解説で示されている園での具体的な場面や子どもたちの様子については、実際の園で撮影した動画を教材として使用し、理解を深められるようにしました。園生活での子どもたちの映像教材は、皆さん「かわいい！」と言いながら熱心に視聴していましたね。 授業方法としてその他に、第4回目からは乱数表によりグループ分けしたメンバーで、毎回グループワークを実施しました。子どもとのかかわり方等に関する課題を設定し、グループ内で意見を出し合い、方法を提案する等の取り組みをしました。 さらに、授業の後半30分では「保育内容を深める遊びや児童文化財」をテーマに、多種多様な児童文化財（素話、絵本、紙芝居、手遊び・うた遊び、折り紙、パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター、人形遊び、劇遊び、わらべうた遊び、昔遊び（伝承遊び）、鬼ごっこ、様々な玩具での遊び等）の中から、教室でも実践できる折り紙、手遊び・うた遊び、絵本を取り上げ、毎回グループでの実践や発表に挑戦しました。保育の内容を豊かにするための遊びや児童文化財について実際に触れて、遊んでみて、楽しんでもみる体験的な学習も試みました。授業評価の「この授業で良いと思った点」の自由記述に『授業内容を聞くだけでなく、自分たちの意見を出してみんなで共有できたことが学びになり楽しかったです！』や『保育・教育要領以外にも絵本や手遊びの時にどうすればいいかを理解することができたところです。』とあり、複数の授業方法を導入することで学びが充実したようでうれしいです。 「素話」の実践においても、ほとんどの学生が練習をして本番に臨んでくれていました。皆の前で一人で実践することは初めての学生も居たと思います。恥ずかしいですし、とても緊張したことと思います。よく頑張って取り組んでいました。					

2年生以降、保育に関する専門的な科目が一気に増えてきます。「保育内容総論」での学びを基盤に、各分野の学びを深めていってください。3年次から始まる本格的な実習に向けて、しっかり準備をしていってほしいと思います。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの歯と健康				
担 当 者	吉田幸恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.4	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
自らの口腔内を観察し理解することで、子どもの歯に対する興味が湧くと思います。参加型の授業を通して学習内容を深く理解していただけると嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと環境				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
半年間の受講、お疲れ様でした。これからの皆さんのご活躍を、心から願っています。 最終試験レポートで皆さんに課した課題は、この授業を通じて特に考えて欲しかったところです。卒業された後も、さまざまなところで活かして頂ければと思います。 テーマ①の「予想される未来社会の姿と、そうした社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力」に関しては、これからますます真剣に議論しないといけない課題だと考えています。授業の中でも触れたと思いますが、最近では生成 AI が急速に進化しています。その代表例として、チャット GPT を挙げることができます。昨年に使い始めてみて、その能力に驚きました。ところが、それがどんどんと進化して、もはや生成 AI という呼び方が正しいのか分からない程に、出来る事が多様化しています。今なお、さまざまなユーザーが、新たな使い方を模索して、その可能性の幅を広げています。これが 1 年強の期間での変化ですから、これからのテクノロジーの進化は、さらに加速していくと思います。その影響は、これから社会に出て歩み始める皆さんにも及んでいきます。そして、さらに先の未来を生きる子どもたちは、もっともっと影響を受けることでしょう。皆さんに未来と託したいと思います。どうか力強く、未来に向かって歩んでいてください。そして、次世代を生きる子どもたちをよろしく願います。 テーマ②の「領域「環境」のねらいの達成のためや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（いわゆる 10 の姿）」に描かれた姿のうち領域「環境」に関連が深い姿に子どもを育成するためには、どのようなことを配慮すればいいか」に関しては、領域「環境」の視点から、皆さんにこの授業を通じて伝えたかったことを、振り返ってもらうために設定した課題でした。これからの子どもたちには、質の高い保育・幼児教育が求められていると思います。少しでも、記憶に残して頂き、保育実践の場に活かしていただければと切望しています。 いろいろと書いてきましたが、皆さんのご活躍を心より願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子ども家庭支援論				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.7	4.8	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
本科目は、子どもだけでなく、子どもの保護者や家庭環境等を踏まえ、保育者としてどのような保育観や援助観を持って接するかについて考えてきました。ここで得た知識や学びが現場で活かされることを祈っております。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	家庭				
担 当 者	田中ヒサコ				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
学生へのメッセージ					
学びの中に常に発見を持ち、皆が楽しみながら自らのスキルアップをこころがけていました。 教育現場にでても、この経験に自信を持ち 指導してください。 皆さん、楽しくお付き合いくださって、 ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	玩具と文化				
担 当 者	尾崎織女				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
「玩具と文化」——それぞれのテーマにおいて皆さんがどのような知識を得、どのように新たな学びを受け止めたかを確認するために、各回、授業の終わりに小レポートを実施しましたが、皆さんの解答を読むことで、学習の習熟度だけでなく、それぞれの個性や感じ方、驚きや新たな発見があったことへの喜び、またこどものための造形物に対する純粋なまなざしをよく知ることができました。 大学では、ただ、役に立つ知識を求めるだけではなく、幅広いものの見方ができるよう、広く深く自らの興味関心と付き合っていくことが大事だと思います。物事の背景をみる力は、そのひとの人生を豊かにし、周囲にいる人たちをも豊かにしていくものと思います。 皆さんの、こどもやこどものための造形物に対する今のまなざしを大切にしてください。これから玩具文化についてもっと深めていきたいと考える方、そして、保育や教育の現場に出られたのち、またそれ以外の仕事に就かれたり、家庭に入られたりしたのちにも、玩具や遊戯具のことで相談などがあれば、どうぞ日本玩具博物館にいらして下さい。それ以外のことでも、何かあったときにはいつでもいらして下さい。皆さんの先輩たちもよく訪ねてきてくれます。何かの力になればと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子ども家庭支援の心理学				
担 当 者	渡邊恵梨佳				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
受講生の皆様 15回の授業は、実習も挟みながらで大変だったことと思います。出来るだけ、授業内容は身近なテーマや学生の皆さん自身のこと、幼少期を振り返ってリンクするようなことも織り交ぜて講義できるよう心がけました。教室のシステムがうまくいかず手間取ってしまう日もありましたが、今後改善できるよう調整いたします。 まだ、家庭支援というのはピンとこないかもしれませんが、今後の皆さんの実習や学び、職にいつか繋がればと願っています。 皆さんからの、コメントありがたく受け止めて今後に活用させていただきます。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科指導法（図画工作）				
担 当 者	蓮尾正子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.2	4.7	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
練習授業と模擬授業を通して、指導案作成力・授業構想力と展開力・資料作成力を習得する意欲と能力が非常に高いと感じた。毎時間が真剣で教員を目指す学生として、将来が楽しみであるとも感じた。真摯な気持ちで、人として教員としてのステップアップを目指して学び続けてください。応援しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの健康と安全				
担 当 者	唐木 美喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.1	4.1	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
朝早くの1限目の授業、しかも6号館までの山登り、遅刻せずに出席できたことに拍手を送ります。よく頑張りました。 皆さんは、いつも真面目に課題に取り組み、とても熱心に講義を聞いている姿勢に感心しました。分からないところや解釈に悩むところを聞きに来てくれる人も、今までになく多かったのが頼もしく思いました。とても楽しい毎日が送れたことに感謝しています。 私は毎回の3つの質問の回答をいつもとても楽しみにしています。質問の回答でディスカッションができれば、もっと面白かったと思います。年々、答えの様相が変わってくるので、時の変化に驚いたりもしました。楽しい回答をありがとうございます。 教科書の内容だけでは、全てが伝えられないと思い、資料を足していった結果、毎回、内容が多い演習となってしまいました。しっかりついてきてくれたことに感謝しています。子どもに関わる仕事を目指す人には、知っておいてほしいことがたくさんあり、この演習ではまだまだ伝えきれていません。後は、君たちがこれからの授業の中で積み重ねてほしいと思っています。 包帯法の実習や心肺蘇生法の演習、沐浴実習と実際に実習で学ぶことも多かったのではないのでしょうか。いじめや虐待のロールプレイ、保健計画作成など班での話し合いも実りあるものになったと思います。 子どもと大人は違います。子どもには無限の可能性があるとと思っています。その子どもにかかわる仕事を選んだことに自信を持ってください。子どものことを知れば知るほど幅広く奥深い知識が必要になってきます。子どもは日々関わる教師の影響を全身で受け止め、それを大人になってもよく覚えています。大きな可能性を秘めている子どもの全てに興味をもち、子どものことをよく知って、子どもに寄り添い、育み、適切な対応ができる保育士になってほしいと願っています。 膨大な資料は、教科書と共に見てもらえるよう配布しました。今度は、君たちが教える立場を目指して進んでいくわけですから、どんな保育者になり、どんな子どもを育てたいかをしっかり持って頑張ってください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	音楽ⅡAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.8	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
大学に入って初めてピアノに触ったという人も沢山おられましたが、一年間この授業を受けていかがでしたか？ ピアノは練習したからといって、すぐに結果が出るものではありませんが、毎日少しの時間でも練習を積み重ねていくと必ず上達するということがわかってもらえたと思います。 次年度、義務教育コースの方たちは個人レッスンという形の授業はなくなってしまいますが、せっかくここまで弾けるようになった技術をキープできるよう、これからも自学自習を続けましょう。特に、簡易伴奏の付け方は覚えておくに必ず役立ちますので、復習しておいてくださいね。何か聞きたいことがあれば、いつでも質問を受け付けます。 保育・幼児教育コースの方たちは、次年度も引き続き個人レッスンがあります。今よりも更に表現力豊かな演奏・子どもたちの様子を見ながらの余裕を持った弾き歌いができるよう、練習に励んでください。また皆さんの素敵な演奏を聴かせてもらうのを楽しみにしています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	基礎音楽ⅢAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.4	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
今期は、隔週のように発表があり大変だったと思いますが、本当によく頑張って毎回の課題に取り組んでくれたなと思います。ここで学んだ簡易伴奏の付け方をしっかり覚えて、ぜひ現場でも活用してください。 次年度はピアノの個人レッスンがなくなってしまうますが、せっかく身に付けた技術をキープできるよう、これからも自学自習を続けましょう。何か聞きたいことがあれば、いつでも質問を受け付けます。 試験では、どうしても緊張してしまっているように弾けなかったこともあったと思いますが、皆さんが実際にピアノを弾く・弾き歌いをする時は周りに子どもたちがいます。その場面を想像したらきっと笑顔になると思います。 その子どもたちに、音楽を通して日本の四季の美しさや、可愛らしい物語などを歌った童謡や唱歌を沢山教えてあげてください。そして、音楽でコミュニケーションが取れるような先生になってもらえたらとても嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	図画工作Ⅱ				
担 当 者	藤本由佳利				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.8	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
1 年間、よくがんばってくださいました。また、高評価に加えてあたたかいメッセージをたくさんありがとうございました。初回に、授業に対して苦手意識があると言われた方が多かったですが、1 年かけてそれを克服されてうれしく思っています。 ここで培われた基盤をもとに、豊かな人生を歩まれますことを願っています。 文部科学省のホームページには以下の文言が記されています。 「芸術は、人生を豊かにするものです。豊かな人間性を涵養し、創造性を育み、感性を育てるほか、他者に共感する心を通じて他人を尊重し、考えを異にする人々と共に、生きる資質を育むものです。」					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	野外あそび実践				
担 当 者	清水勲夫				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.7	4.5	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
実技、実習は積極的に臨んでくれました、現場に出てもその前向きさは是非失わないように願うばかりです					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科指導法（音楽）にしてはどうですか				
担 当 者	瀬川和子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.4	4.8	4.7	4.9	4.9	
学生へのメッセージ					
今年度は授業方法として模擬授業の実践回数を増やしてみました。グループでの担当と個人での担当の機会を設定したことにより、いずれの受講者も意欲的に取り組み、各自が調べ、考える姿勢も身につき、学修成果を実感しているようです。皆さんがよくまとまっており、学生同士刺激を受けながら向上できたと考えています。 模擬授業の内容について、歌唱共通教材の歌詞については指導方法に工夫が見られました。音楽的な側面については検討の余地が残されているため、低学年から高学年まで6年間の全体像を見通す場面も設定してみることで教科の目標の理解が深まると思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教育行政学				
担 当 者	郭 暁博				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.2	4.3	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
法律や制度など、なかなか理解しづらい内容でも、積極的に授業に参加してくれて、ありがとうございました。教育行政学で学習した知識・情報などをぜひ今後の就職活動にご活用ください。教育行政について、何かわからないことがありましたら、いつでも気軽にお問い合わせください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもと音楽表現				
担 当 者	曲田映世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.4	4.4	4.5	4.4	
学生へのメッセージ					
この授業は、子どもの感性や創造性を豊かにするための様々な音楽表現遊びや環境の構成などについて、体験することを中心に行ってきました。なぜ、これが音楽表現につながるのだろうと思うようなこともあったと思いますが、皆さんが楽しみながら取り組まれていた姿が印象的でした。いただいたご意見を参考に今後に繋げていきたいと思っています。ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの食と栄養Ⅱ				
担 当 者	進藤 容子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.5	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
アンケートから、皆さんがしっかりと学んだ様子がうかがえました。前期の「子どもの食と栄養Ⅰ」に続き、積極的に授業に取り組んでいただけたと思います。途中、学外実習がありましたが、そのことでより一層、子どもの実態の理解や課題意識をもっていただけていたように感じました。引き続き、食に興味を持っていただき、根拠をもって子どもにとって最もよいことを判断していただけたらと思います。また、この授業が、皆さん自身の健康管理にも役立つと嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	社会的養護ⅡA・B				
担 当 者	井出 沙里				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.5	4.6	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
大学で幼児教育について勉学に励まれている学生のみなさん、社会的養護の授業の中で、児童虐待など子どもの深刻化・顕在化する問題について話し、それにともない児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもの実際について触れました。そこで、みなさんが多くの事を真剣に受け止め考えてくださったと感じています。 子どもはいかなる環境のもとで育ったとしても、その人格は尊重され、状況に応じた健やかな育ちが保障されなければなりません。 子どもが豊かに生活するための十分な環境の準備を社会的養護関係者は、あらゆる社会資源を活用しながら関係するすべての方々と協働・連携して、総力をあげて取り組まなければなりません。 みなさんと共に考えたこと、またみなさんの新しい視点は、現在、喫緊の課題を抱える社会的養護の分野において、一筋の光があるように感じたことも事実です。 子どもの健幸な生活の実現を目指し、これからも共に幼児教育に携わる者として人間性や専門性の向上に努めていきましょう。					